

1 . はじめに

我が国における国際宇宙ステーション計画は、近年、米国の予算超過問題に端を発した計画の見直しや、宇宙ステーション利用の準備の進展に伴う利用の拡大・多様化への要請、厳しい国内財政事情、宇宙3機関の統合等、同計画を取り巻く環境に変化が生じている。

宇宙開発委員会は、このような近年の環境変化に対応し、我が国の国際宇宙ステーション計画をより意義のあるものとし、求められる成果を確実にかつ適時に創出するために、国際宇宙ステーション計画の今後の進め方に関する検討を行い、平成14年6月、今後のロケット開発、衛星開発の進め方とともに、宇宙開発委員会報告書「我が国の宇宙環境利用の目標と方向性」として取りまとめた。

同報告書では、安全で確実な日本の実験棟(以下、「JEM」という。)の打上げや、有意義な運用・利用の実施のために、今後とも引き続き、効果的・効率的に計画を推進していくとの方針を示した上で、環境の変化に対応した利用計画の重点化や民間活力の導入等による運用・利用体制の効率化等の検討を行うこととした。

また、平成14年6月、総合科学技術会議報告書「今後の宇宙開発利用に関する取組みの基本について」においても、我が国は、国際宇宙ステーション計画を通じ、有人宇宙技術を着実に蓄積する、関係国間の協議を踏まえつつJEMを確実に打ち上げる、との方針を示した上で、民間活力による運用の効率化、優先度に応じた利用計画の見直しを行い、JEMの運用・利用に要する経費を中心に大幅な削減に努めることが求められている。

これらの指摘を受け、宇宙開発委員会では、平成15年3月より、利用部会の下に新たに「国際宇宙ステーション利用専門委員会」を設置し、国際宇宙ステーションの利用の重点化、運用・利用体制の効率化等を検討するための審議を開始した。

本報告書は、これまで本専門委員会において審議した内容を中間的に取りまとめたものである。なお、上記検討を行うにあたって本専門委員会は、宇宙開発事業団に設置された宇宙環境利用検討委員会及び利用促進検討委員会と連携を図りつつ審議を進めてきたところである。(別添1)

2 . 国際宇宙ステーション計画への参加意義

(1) 我が国の宇宙開発の目的

宇宙開発は、人類にとって広大なフロンティアの開拓であるとともに、国の存立基盤の確保、産業の発展、国民生活の豊かさと質の向上、知的資産の拡大、国際協力等において大きな役割を果たすものである。また、科学技術基本計画で示された重点分野の推進も考慮し、科学技術創造立国の実現を目指す上で、より重点化を図り、効果的かつ効果的な宇宙開発が求められている。

このため、宇宙開発を進めるにあたっては、宇宙環境を新たな活動の場と捉えるとともに、宇宙の起源、地球の諸現象等に関する知識・知見の獲得、我が国の経済社会の発展への寄与、国民が安心して生活できるようにする安全・安心の確保、国民生活の豊かさと質の向上という目的を踏まえた取組が必要である。